



衣川 重介

『御池山（おいけやま）クレーター』

1609年のことです。イタリアの天文学者、ガリレオ・ガリレイは月面を天体望遠鏡で観察をしていました。表面に円形の凹地を確認し、クレーターと名づけました。以来、円形の凹地をクレーターと言うようになりましたが、その成因には火山説と隕石衝突説とが争っていましたが、現在では月のクレーターの大部分は衝突によって生じたものと考えられています。

弊社ミニコミ紙『夢通信』の愛読者で『鉄のふしぎ博物館』へも数度訪問頂いている栄栗市の志水様から電話を頂きました。『隕石の記事を送って頂いていますが、日本にも隕石の落下跡があるのですよ。』『え!』『先般、長野県飯田市へ見に行ってきました。資料を持っていますので、近々お伺いします。』数日後、お持ち頂いたのは『飯田市美術博物館』2011年 3月発行の御池山隕石クレーターて何だろう?こんなタイトルの記念誌でした。(写真右参照)

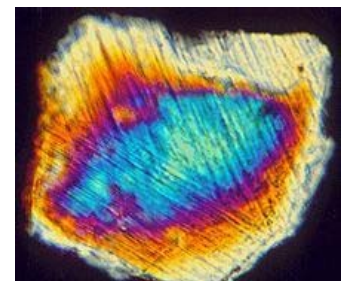
地勢に詳しいごく一部の人は独特の地形から隕石クレーターではないかとの疑問をもっていました。山の急斜面であり同様の湾曲した山稜があるため、確認が困難でした。長い時間を掛けた地道な研究の結果、隕石は見つかりませんでした。岩石サンプルが隕石の衝突によって出来た岩石。衝撃石英（しょうげきせきえい）であることが、岡山理科大学の鑑定によって確認されました。

御池山クレーターは、隕石衝突による痕跡が日本で初めて確認された唯一のクレーターです。長野県飯田市（旧上村）内、南アルプス南部の御池山（1905メートル）付近に位置する。このクレーターは直径約 900メートルで、現在残っているのは全体の40パーセントほどです。地元では以前からこの地形の中を遊歩道が通っており、実際にクレーター内を散策でき、展望台からも一望できます。このクレーターは数万年前に直径40～50メートルほどの天体が衝突した痕跡であることが確認されました。

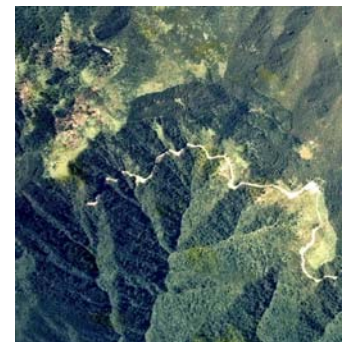
御池山クレーターとされる地形の空中写真（1976年） 国土交通省 国土画像情報（カラー空中写真）を基に作成 写真の白線の内側にある扇形のくぼみがそれにあたる。写真右側が北。

参考図書

飯田市美術博物館 2011年 3月発行
『御池山隕石クレーターて何だろう?』



衝撃石英の偏光顕微鏡写真。
チェサピーク湾クレーター
で採取された砂粒



『鉄のふしぎ博物館』

鉄を見る目がかわりますよ。
ぜひお越しください。

来て!見て!ふれて! ふしぎ体感



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋

